

オンライン授業について

本資料では、始めにオンライン授業（遠隔授業）に関する、基本的な知識や考え方を示していきます。次に、それを踏まえての授業形態別（講義、実習・実技・実験、ゼミ・研究指導）の実践的な授業設計のモデルケースや、そのために必要な情報（manaba 以外の LMS、学生の通信環境）を例示していきます¹。なお、モデルケースにつきましてはあくまでひとつの事例であり、強制するものではありません。本資料が少しでも先生方のオンライン授業における設計の一助になれば幸いです。

【目次】

1. 著作権について（P2）
2. オンライン授業（遠隔授業）の背景（P3～7）
 - （1）大学教育における指針
 - （2）学習時間について
 - （3）成績評価について
 - （4）その他
3. オンライン授業設計に向けて（P8～13）
 - （1）オンライン授業設計における基本的な考え方
 - （2）授業形態別におけるモデルケース
4. オンライン授業設計の関連情報（P14）
 - （1）manaba 以外の LMS
 - （2）通信会社の対応（学生への特例対応）

¹ 本学が公式で採用している manaba や Stream などの使用方法は、教務課（ICT 活用教育推進担当）作成の「オンライン授業マニュアル<準備編><実施編>」などを参考にしてください。manaba に掲載されています。

1. 著作権について

経緯として、「著作権法の一部を改正する法律」の35条関連は、2021年5月までの施行に向けて準備が行われていました。しかしながら、この状況を踏まえて、2020年4月6日に、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）は、2020年度の特例として、機関（大学）が支払う補償金「無償」の認可申請を決定したことを発表しました。4月28日には改正法が施行されます²。すなわち2020年度中は機関（大学）が支払う補償金が無償となります（2021年度からは有償予定）^{3 4}。

<概要>

・教育機関の授業の過程における公衆送信による著作物の利用を広く認め、これを無許諾で行うことを可能になります。ただし、著作権者の利益を不当に害するような利用は不可。

⇒かなり、ざっくりな説明として、対面授業と同じ扱いで良いと考えられます。つまり引用などをしっかりすればOKです。今回の場合、引用や出典をきちんと行えば、manabaに配布資料として掲載してもOKということです（非同期オンライン無償無許諾）⁵。

² 文化庁「授業目的公衆送信補償金制度の早期施行について」

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/92169601.html>

³ 一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会 SARTRAS「授業目的公衆送信補償金制度」が4月28日にスタートしました。[こちら（URL）に詳細が掲載されていますので必ず一読してください。](#)

<https://sartras.or.jp/>

⁴ 2020年度については学校法人関東学院として事務局が申請中。申請中でも無償無許諾で適応可能。

⁵ STORIA法律事務所「大学などの遠隔授業等における「著作権の壁」をクリアするためには」。解説記事として参照してください。

<https://storialaw.jp/blog/7032>

2. オンライン授業（遠隔授業）⁶の背景

（1）大学教育における指針

・令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知） 元文科高第1259号
2020/3/24⁷

→ 3. 遠隔授業の活用について

「(1)今後、学生の学修機会を確保するとともに、感染リスクを低減する観点から、いわゆる面接授業に代えて、遠隔授業を行うことが考えられること。その際、平成13年文部科学省告示第51号(大学設置基準第25条の規定に基づき、大学が履修させることができる授業について定める件)等に従い行う必要があるところ、同告示第2号等の規定に基づき、テレビ会議システム等を利用した同時双方向型の遠隔授業や、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業を自宅等にいる学生に対して行うことは可能であり、例えば以下の方法によることが考えられる。」

・遠隔授業に関わる2つの方法

この3・24通知では、遠隔授業について次の2つの方法を提示しています。

①テレビ会議システムを用いた遠隔授業の例 **同期型（同時双方向・オンライン）**

「**テレビ会議システムを利用して講義をリアルタイム配信し、学生は教室以外の場所(自宅を含む。)において、PCや携帯電話からインターネットに接続し受講。テレビ会議システムによって、**教員と学生が、互いに映像・音声等による質疑応答や意見交換を行う。****」

⇒具体的なツールとしては、「Microsoft Teams」（本学はoffice365で契約）、「Zoom」（比較的操作容易）、「Hangouts Meet (google)」等があげられます。

⁶ 文部科学省などの政策文書では「遠隔教育」と示されていますが、本学で通知しているオンライン授業と同義と見なしてください。

⁷ 令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）3月24日
https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf を参照しています。
通知の下線部や色、また一部用語を作成者が加筆しています。

②オンライン教材(LMS 等)を用いた遠隔授業の例 非同期型 (オンデマンド)

「スライド資料や講義形式の動画等を教材として e-learning システム等を準備し、学生は教室以外の場所(自宅を含む。)において、PC や携帯電話からインターネットに接続し、随時又は期限が設定されている場合は当該期限内に受講。学生からの課題提出や質問の受付及び回答、学生間の意見交換等についても、インターネット等を通じて行う。質問の受付及び回答については、よくある質問とそれに対する答えについてあらかじめ提示しておき、それ以外の質問について担当教員又は指導補助者が回答するといった手法も考えられる。なお、聴講の前後において、授業担当教員による説明等の指導を行う必要があるが、こうした遠隔授業の一部として、MOOC 等の教育コンテンツを活用することも考えられる。」

⇒本学では、プラットフォームとして「manaba」を採用。

・解説・補足⁸⁹

本学の 2020 年春学期において必須とされるのは、「②オンライン教材(LMS 等)を用いた遠隔授業の例」に相当します。例えば、パワーポイントによる音声付き動画を manaba に掲示して、小テストやレポートの提出、回答解説などのフィードバックなどが想定されます¹⁰。

基本的な形として、平成 13 年文部科学省告示第 51 号の第 2 号¹¹の規定に基づいた「授業の終了後すみやかに、①「**設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導**」を行うとともに、②「**学生の意見の交換の機会**」が必要とされています。但し、4・21 通知の問 6 の Q&A では、「**同時双方向型の遠隔授業の場合には、当該授業の実施中に上記①及び②を行うことにより、教育効果が担保できていれば、“授業の終了後すみやか”に上記①及び②の実施を求めることは必ずしも必要ではない¹²**」とされています。すなわち、テレビ会議システムなどを活用した同時双方向型授業においては授業内での指導で実施しても良いと解釈できます。

⁸ この解説・補足については、文部科学省「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係る Q&A の送付について（4 月 21 日時点）」を参照しています。この Q&A は随時更新されている状況です。本資料の他の解説・補足も同様です。

https://www.mext.go.jp/content/20200421-mxt_kouhou01-000004520_7.pdf

⁹ NII: 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構国立情報学研究所が 3 月末より毎週開催している「4 月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」の情報も踏まえています。各回で文部科学省高等教育局専門教育課企画官 西山崇志氏が通知の解説を行っています。ただ、コメントとして“文科省も前例がないことで、現場の教育実践や声を踏まえて政策に反映していく”とのことで、政策と実践のスパイラルで都度状況対応している印象です。

<https://www.nii.ac.jp/news/2020/0325.html>

¹⁰ オンライン授業設計のモデルケースの詳細は後述。

¹¹ 「大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件」（平成十三年文部科学省告示第五十一号→平成十九年文部科学省告示第百十四号）

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103/002.htm

¹² 4・21 通知問 6 の Q&A を要約したもので、詳細は注 8 の原文を参照してください。他も同様。

4・2 1 通知の問9のQ&Aで、判断が難しいとされる「教科書や教材による学修を一定時間自宅において行かせたうえで、メールや掲示板等を用いて質疑応答等を行うことは許容されるか。」については、「教科書や教材による学修は禁止されていないが、学修のねらいや課題にあたって必要な視点や観点を示したうえで、授業後の質疑応答やフィードバックが必要」とされています。いわゆる教科書を中心とした知識伝授型や、演習問題を軸とした授業については、manabaで該当ページを指定し、解説資料の掲示や小テストのフィードバック機能で対応できるとも考えられます。

さらに、同通知の問10における「外部機関等のMOOC等を自宅で学修したことをもって単位付与するような運用を許容しているのか。」については、「大学が開設した授業の一部で外部機関等が開設したMOOC等を“教材”としての使用を想定したもの、もしくはMOOC等を提供する外部機関等と連携協力して授業を実施することを想定したもので、その場合機関における協定書や担当教員による管理が必要である」とされています。ですので、実際としては、「教材扱い」としての活用が一般的であり、具体的には、該当するURLなどをmanabaに掲示して、学生に視聴させるといった方法が考えられます。

(2) 学習時間について

学習時間については単位数に応じて必要な学習時間を目標として課題等を設定する必要があります。
例) 2単位：全ての学習時間を合計し 90分×3(予習・授業・復習)×15(回) = 4,050分
現状では、文科省の各種通知においても、オンライン授業における具体的な対応策は見当たらず、各大学の弾力的な運用により、所定の学習時間を満たすことが求められている状況です。

事例として、一橋大学の考え方を紹介します¹³。通常の対面授業では重要なこと(難しいこと)を2度繰り返していると想定し、半分の授業時間を映像化すれば、要件を満たしているという考え方です。必

¹³ 教員の皆様 2020年4月1日 教育担当副学長 沼上 幹『一橋大学の春夏学期の授業に関しまして、以下の様な方向にしたいと考えておりますので、お知らせ致します。』から抜粋。

(2)映像配信授業の長さ等の目安

①映像配信授業の場合、普段の授業では2回繰り返して説明していることを、自分で繰り返し見れば良いと考え、105分ではなく、短縮することも可能です。もちろん105分お話しになる授業でも構いません。もし短縮するとしたら、次の様な考え方がありますので、ご参考までに。

(a) たとえば、授業中に難しいことを理解してもらうために平均すると同一内容を2度繰り返している授業を想定すると、55分程度の授業を映像化すれば授業の情報内容が提供できます。この55分程度の映像にmanaba上での小テストなどを組み合わせ、さらに学生の自習課題を与えるなどを行なうと、2単位であれば、105分×3(予習・授業・復習)×13週の学修時間を達成するように心がけて下さい。基本は、すべての学修時間を合わせて、105分×3×13週を満たすことを目指す、という点にあります。

(b) なお、映像配信授業の場合には、長い時間にわたって学生が注意力を維持して視聴するのは難しい、という可能性があります。そのことを考慮すると、例えば、27分程度の1モジュールを2つ用意し、それをもって1コマとすると考えることもありえます。もちろん、20分+20分+15分などのような構成も可能です。重要なことは、繰り返しになりますが、「すべての学修時間を合わせて、105分×3×13週を満たすことを目指す」という点にあります。このような状況の中でも学生の学修効果が高まるように、様々な工夫を盛り込む等、ご協力をお願いいたします。

ずしも 90 分間の動画資料を作成する必要はないということです。そもそも、学生が動画コンテンツを連続して視聴できるのは、長くても 15 分程度といわれています。

また、考え方によっては、**対面授業であった場合に、読解させる資料や、解かせる演習問題を組み合わせることで、学習時間を確保することができます。**例えば、授業内 90 分であっても、映像資料①15 分、配布資料¹⁴①（事前に manaba に UP）の読解 10 分、映像資料②15 分、配布資料②の読解 10 分、小テストまたはミニレポート 20 分。これの単純合計時間は 70 分であるが、映像資料①と②で重要なことを扱っているため、みなしで 90 分満たしているという考え方です。この場合、映像資料の作成は 15 分×2 の 30 分になります。また、**配布資料ではなく、公開されている動画コンテンツの視聴を指示するやり方も考えられます。**

（3）成績評価について

成績評価については、4・2 1 通知（問 21、22）で一定の方向性が示されました。

問 21「**あらかじめ学生に示していた方法で成績評価することが困難となった場合、成績評価方法を変更することは許されるのか。例えば、評定を付すとしていた科目について、合否のみで評価することは可能か。**については、「各大学の判断により、学生に対してあらかじめ示していた成績評価方法を変更すること（評定を付す方法から合否のみによる評価方法への変更も含む。）は可能であり、各授業科目の到達目標に応じた適切な成績評価手法を選択していただくとともに、変更にあたっては学生に対する丁寧な説明に努めるようお願いいたします。」。

すなわち、科目担当者においては、成績評価方法を変更する場合、オンライン授業の初回でエビデンスが残る形で、学生へ説明することが必要です（学生からの問い合わせ対応や、教育の質保証の観点からも求められます）。

（4）その他

・学生の通信環境について

4・2 1 通知の問 1 1 において、「**学生の通信環境への配慮についてどのような取組が考えられるか。**」に対しては、「**学生の通信環境に配慮すること、資料など低容量化や、LMS でのダウンロードにおいて比較的空いている時間帯の指定などの検討**」が求められています。本学においてはスマートフォンでの受講生が多いこと、また manaba のサーバー不調などの状況を踏まえた授業設計が必要です。

¹⁴ 非同期型（オンデマンド）授業において、著作物を WEB 上に掲示（本学だと manaba）するのは違反扱いであったが、令和 2 年度のみ特例にて無償無許可で掲示が可能となる。これにより、対面授業での配布資料の多くが manaba に掲載可能となると考えられます。

・学事日程について

大学設置基準第23条において、各授業科目の授業は、10週又は15週にわたる期間を単位として行うことが原則となっていますが、3・24通知にて、上記原則の例外として、10週又は15週以外の授業期間についても許容されることが示されました。

これを踏まえて、4・21通知の間3において、「前期授業期間終了後の夏季休業期間中に遠隔授業により補講を行い、後期が始まる直前に期末試験を行うなど、夏季休業期間を前期中の学修時間として柔軟に活用することが可能か。」に対しては、「上記運用は可能」とされています¹⁵。

・オンライン授業（遠隔授業）の60単位上限について

4・21通知の間17の、「新型コロナウイルス感染症対策として、本来面接授業として実施することを予定していた授業科目に係る授業の全部又は一部が、結果的に遠隔授業により実施された場合については、60単位の上限に算入する必要があるか。」に対して、「特例的な措置により、今回の遠隔授業対応は60単位の上限に算入する必要はありません。」とされています。つまり60単位上限については今回検討する必要がないと考えられます。

¹⁵ 学事歴については、大学や学部学科の運用方針をご確認ください。

3. オンライン授業設計に向けて

(1) オンライン授業設計における基本的な考え方

・学習到達目標から教育手法を検討する

通常の対面授業と同様に、学習到達目標を振り返り、それを達成するために、どのような教育手法（オンラインでも）で取り組んでいくかを考えることが大切になります。

⇒「違う手段でも同じ目標（＝価値）に迫れるのではないか」（鈴木 2012）¹⁶

また、対面授業と同様のことができない、オンライン授業においても、特に学生に修得させたいこと（学修成果）について精査することも重要になります。

・オンライン授業設計のポイント¹⁷

- ① 教材提示（本学では manaba を通じて行われる）は、音声、動画のあるなしにかかわらず 1 コニット 5 分～10 分程度の長さにする。
- ② 授業内に、学生が教材の内容を理解したか、問いかけたり、小テストを行うなど、適切に確認する。
- ③ どんなことを学生に学修させようとしている場合においても -彼らに実践の機会を与え-迅速にフィードバックする（掲示板などで）。
- ④ 学生の学修の質を評価する、学生に省察させる（小テスト、事後学修課題などで）。
- ⑤ 90 分の学修時間として設計するが、1 週間の間のある一定の期間で学修が完了するように促すことが望ましい。
- ⑥ 遠隔授業では、学生との双方向のやりとり（学生の学修活動の確認）により出席確認する。

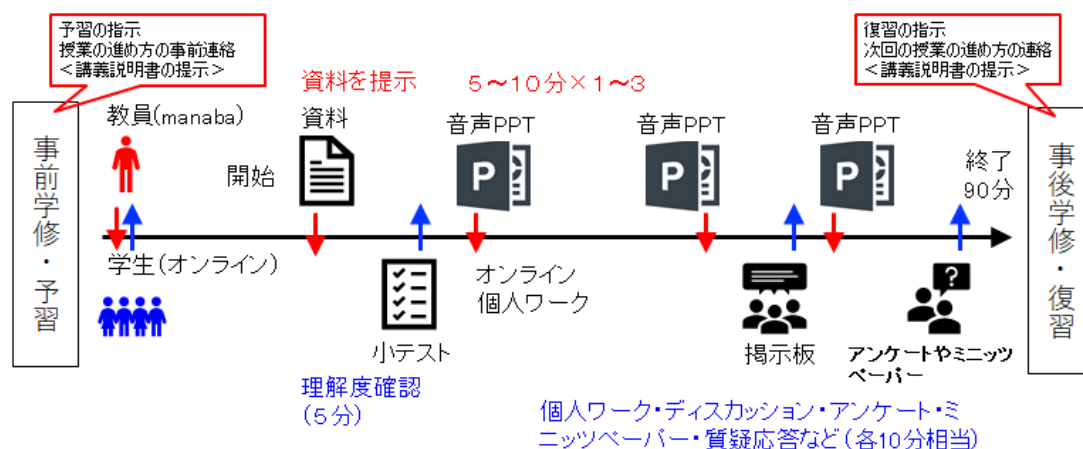
・オンライン授業設計（非同期）のモデル

先の授業設計のポイントに沿った形で、LMS（manaba）を活用したオンライン授業設計のモデルの 3 パターンを次に示します。あくまでヒント（イメージ）ですので、先生方の授業設計構築の参照にしてください。授業内活動のパターンとしての例示であり、オンデマンド（非同期）実施にあたっては、オンライン個人ワーク、ミニツレポート・小レポート、アンケート、掲示板などの各種活動を合わせて 90 分相当の活動として考えてみてください。

¹⁶ 鈴木克明（2012）「遠隔教育者を支える同価値理論と交流距離理論」第 19 回日本教育メディア学会年次大会（東北学院大学）発表論文集 27-28

¹⁷ 金沢大学国際基幹教育院高等教育開発・支援部門 杉森公一准教授から提供して頂いた学内説明資料について、許諾を得たうえで、作成者が加筆修正しています。設計図やワークシートも同様。なお、内容は絶対的な基準ではなく、一つの方向性を示しているものにすぎず、授業設計は科目担当者の裁量によります。「オンライン授業に関するガイド・リソース」<http://herd.w3.kanazawa-u.ac.jp/support/online/>

オンライン授業設計（パターン1）

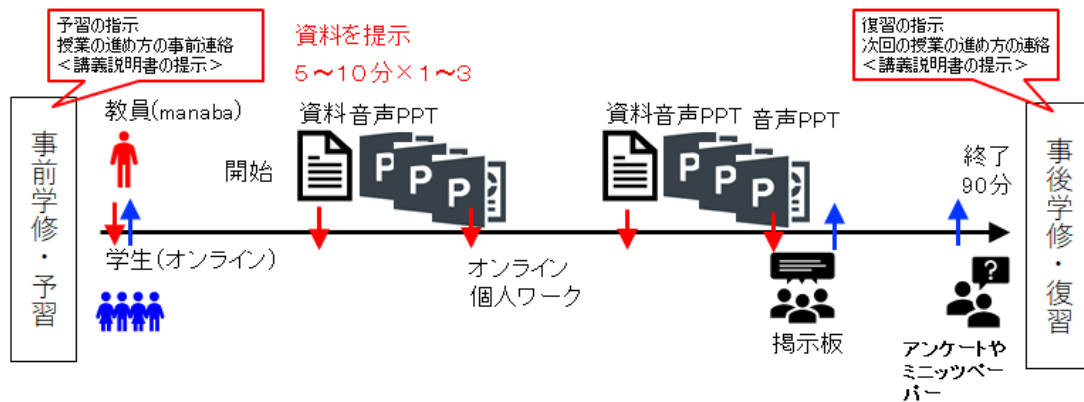


【パターン1：90分の学習活動と指導上の工夫（例）】

※あくまで90分内の学習活動の一例で、目安です。

学生の学習活動	教員の指導上の工夫・留意事項	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・manaba にアクセス ・資料をダウンロード ・資料を読解 ・小テストに取り組む ・音声付きの PPT を視聴① ・個人ワーク ・音声付き PPT を視聴② ・アンケートもしくはミニツッペーパーに取り組む <p>(※掲示板に自分の意見や疑問点を書き込む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・manaba のマニュアルを読むように指示 ・目安時間や、資料の狙い、読解のポイントなどを示す ・目安の時間を示す ・ファイルの容量に気をつける。スマートフォンでも視聴しやすい資料にする ・ワークの狙いと目安時間を示す ・目安時間や、資料の狙い、読解のポイントなどを示す ・目安時間を示す。成績評価に加える場合は、点数と評価基準を示す。 <p>(・非同期なので、1週間以内に授業の感想や、気になったことなどを manaba の掲示板に書き込むよう指示する。また、掲示板に書き込む時間を、みなしで90分の授業内に組み込むという考え方もできる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニツッペーパーで採点(簡易なルーブリックなどで採点基準を作成) ・アンケートの場合は提出の有無で

オンライン授業設計（パターン2）

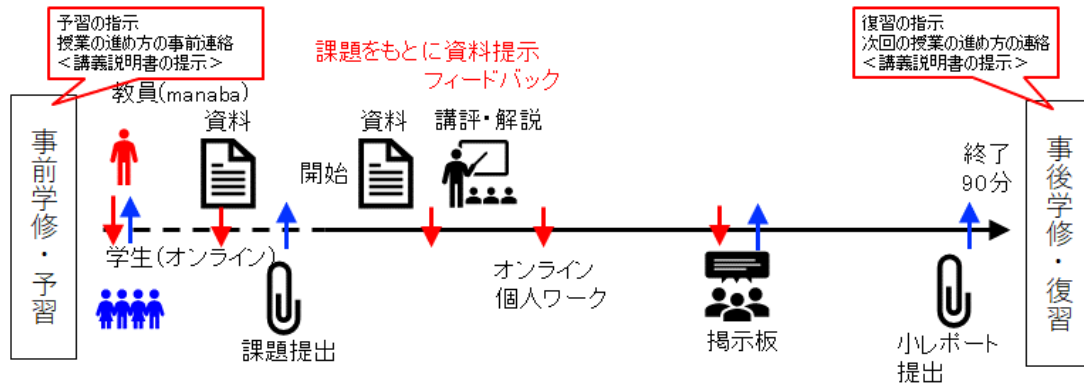


【パターン2：90分の学習活動と指導上の工夫（例）】

※あくまで90分内の学習活動の一例で、目安です。

学生の学習活動	教員の指導上の工夫・留意事項	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・manaba にアクセス ・資料をダウンロード ・資料を読解 	<ul style="list-style-type: none"> ・manaba のマニュアルを読むように指示 ・目安時間や、資料の狙い、読解のポイントなどを示す 	
<ul style="list-style-type: none"> ・音声付きの PPT を視聴（複数ファイル） ・個人ワーク ・音声付き PPT を視聴（複数ファイル） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイルの容量に気をつける。スマートフォンでも視聴しやすい資料にする ・ワークの狙いと目安時間を示す ・目安時間や、資料の狙い、読解のポイントなどを示す 	
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートもしくはミニツッペーパーに取り組む <p>（※掲示板に自分の意見や疑問点を書き込む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目安時間を示す。成績評価に加える場合は、点数と評価基準を示す。 <p>（・非同期なので、1週間以内に授業の感想や、気になったことなどを manaba の掲示板に書き込むよう指示する。また、掲示板に書き込む時間を、みなしで90分の授業内に組み込むという考え方もできる）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニツッペーパーで採点（簡易なルーブリックなどで採点基準を作成） ・アンケートの場合は提出の有無で

オンライン授業設計（パターン3）



【パターン3：90分の学習活動と指導上の工夫（例）】

※あくまで90分内の学習活動の一例で、目安です。

学生の学習活動	教員の指導上の工夫・留意事項	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・manaba にアクセス ・事前に課題を提出 ・資料をダウンロード ・事前課題の講評や解説 ・個人ワーク ・小レポートに取り組む <p>(※掲示板に自分の意見や疑問点を書き込む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・manaba のマニュアルを読むように指示 ・課題の提出率を上げるために、提出未提出者は減点など、ルールを決める ・事前に課題に目を通したうえで、論点をまとめる。音声付き PPT など解説。 ・ワークの狙いと目安時間を示す ・目安時間を示す。成績評価に加える場合は、点数と評価基準を示す。 <p>(・非同期なので、1週間以内に授業の感想や、気になったことなどを manaba の掲示板に書き込むよう指示する。また、掲示板に書き込む時間を、みなしで90分の授業内に組み込むという考え方もできる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題未提出者は減点 ・小レポートで採点 (簡易なルーブリックなどで採点基準を作成)

・学生向けの講義説明書（学生向けガイド）

授業シラバスを補足した説明のために、「遠隔授業設計ワークシート」に沿って、講義の要点や課題の指示を明確にした「講義説明書（ガイド）」を作成し示す方法もあります。

【講義説明書（ガイド）の項目】

- ・各回の到達目標
- ・使用する教科書や補助教材
- ・学習の流れ（パターン）に沿って、学生が行う学習活動を箇条書き
- ・学習活動に対応する時間数
- ・事前学習、事後学習を示す
- ・課題に対応した評価基準やチェックリストの例示
- ・そのほか注意事項

【遠隔授業設計ワークシートのひな型】

項目	manaba教材 — Activity(学修活動)		備考
授業名			
到達目標	学生を主語に、「～できる」で終わる		
評価方法	学習到達目標の達成をどのように、見取り、判断するか		
授業計画	W1. 教材で何を伝えるか？	A1. 授業内でどんな活動を？	
	W2.	A2.	
	W3.	A3.	
	W4.	A4.	
	W5.	A5.	
最終課題	到達目標を、どのような課題(テスト・レポート・実技など)で評価するか？		

（２）授業形態別におけるモデルケース

次に、授業形態別でのモデルケースを示します。こちらも、授業設計のヒントとして参照してください。

・講義型

先に示した３つのパターンを参照にしてみてください。音声付きの PPT 以外では、講義ノートなどの資料の pdf ファイルと容量の小さな音声ファイルを提供する「ラジオ講座」風のシンプルな遠隔授業の形式も考えられます¹⁸。

・実験・実技・実習

実験・実技・実習はオンライン授業での実施が最も難しい授業です。一般的な手法としては、

「デモンストレーションの動画作成」+「レポート課題の提示」の組み合わせが考えられます。

その際、実験・実技の「動画アーカイブ利用」も想定されます。（以下事例）

・化学実験の説明動画

<https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/ilas/02/video>

・物理教材のシミュレータ

<https://phet.colorado.edu/en/simulations/category/physics>

その上で、代わりに試薬、装置を学生の自宅に郵送し操作させます。但し、日用品に限定されます。

他の方法の事例として、医療系では、症例が蓄積されているので、過去のケースをシナリオ化して、ペーパー・ペイシエント(紙上患者)を一年前の評価流用で対応するという案が検討されています。

また、体育 ICT 研究会の「同時双方向型の遠隔体育の授業実践」の事例も出てきています¹⁹。

・ゼミナール・研究指導など少人数授業

少人数、個別指導の場合は、テレビ会議システム機能がある「Microsoft Teams」や「Zoom」などの活用も、1つの方法です（同期双方向型授業）。Teams は本学で契約している office365 の機能で使用できます²⁰。Zoom²¹²²も無料で有償版が使用できますが、4 月末までの予定です。無償版は 5 月以降も使用可能です（時間制限などがあります）。これらで、対面授業と同様の指導が可能になります。学生に同期型授業の日時をメールや manaba で知らせて、参加させてください。

¹⁸ 学習院大学理学部田崎晴明教授「できるだけシンプルな遠隔授業・試作公開版」
<https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/RLtest/>

¹⁹ 同時双方向型の遠隔体育の授業実践 <https://ict-enews.net/zoomin/27suzuki/>

²⁰ Microsoft Teams については別稿で扱う予定です。

²¹ 大阪大学岩居弘樹教授「Zoom を使った遠隔授業について」

<https://zoom.les.cmc.osaka-u.ac.jp/>

²² 大阪府立大学高等教育開発センター Zoom で作る講義動画など
<https://www.youtube.com/channel/UCIfV5anpq3i6nRU68y-NopA>

4. オンライン授業設計の関連情報

(1) manaba 以外の LMS

本学の LMS は「manaba」ですが、その他にも「Teams」「Google Classroom」「Webex」でも同様の機能があります。manaba での運用が厳しくなった場合、これらの活用も考えられます。

- ・Teams 参照「Office 365 等の学習コース」 (本学契約)

<https://education.microsoft.com/ja-jp/courses>

- ・ Google Classroom

https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/?modal_active=none

- ・ Webex

<https://www.webex.com/ja/index.html>

(2) 通信会社の対応 (学生への特例対応)

この状況に対応するため、NTT ドコモ、KDDI (au)、ソフトバンクの 3 社は、25 歳以下の学生を対象に 5 月末までの通信料金を軽減する措置をとっています。具体的には、追加データの購入料金を最大 50GB まで無償化を行っています²³。

²³ 総務省「新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学生等の学習に係る通信環境の確保に関する取組状況 (令和 2 年 4 月 14 日時点)

https://www.soumu.go.jp/main_content/000682994.pdf